

基準ごとの自己評価

基準 1 . 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点にかかる状況)

- ・ 本校では、学園が目指す工学アカデミア実現の一翼を担い、学園が定める理念、信条、ビジョンを金沢工業大学と共有することが学園が発行するイーグルブック (資料 1 - 1 - 1) に明示され定められています。
- ・ その上で本校の実践目標を「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」と定め、さらには具体的活動方針を明らかにしています。

(資料 1 - 1 - 1)

「本校の実践目標」

「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における次の5つの活動を通じて、その実現を目指すものです。

- 1) 「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じて“KIT-IDEALS”に基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- 2) 21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。
- 3) エンジニアとして必要な知識や技能に係る専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- 4) 地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- 5) 学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものです。

学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。

学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。

学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

こうした学園の一翼を担う本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、本校の学生、教職員の一致した努力のもと、その取り組みを行わんとするものです。

(出典 「イーグルブック (工学アカデミアの実現をめざして)」 P.7)

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 本校の使命、目的が「イーグルブック」に明確に定められていると認識しています。

観点 1 - 1 - : 目的が学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものでないか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は学園の「工学アカデミア」構想の一翼を担い、高等教育機関である高等専門学校制度の特色を生かした教育の実現に努力してきました。
- ・本校の実践目標である「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」は、本校の学則及び高等専門学校を中堅技術者の育成を目指すものとした、高等専門学校制度の趣旨に合致する目的であると考えています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の実践目標は、学校教育法の定めを外れるものではないと考えています。(資料 1 - 1 - - 1)

(資料 1 - 1 - - 1)

「学則 第1章 目的及び使命」

金沢工業高等専門学校学則

※学則別表第1教育課程表はP.27～39に掲載

第1章 目的及び使命

第1条 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、工業の分野において国家社会に貢献すべき有為の人材を養成することをもって使命とする。

2 前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。

3 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

(出典 「学生便覧 2005」P.110 抜粋)

観点 1 - 2 - : 目的が学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の目的やビジョン等を明示したイーグルブックは、JQA21プロジェクトによって全教職員に配付され学園の価値共有が図られています。
- ・本校が発行する学生便覧に教育の実践目標が明示され、全学生に配付されています。(資料 1 - 2 - - 1)
- ・学園の信条をポスターにして校内に掲示しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の目的やビジョンに沿ったその年の活動方針は、本校、大学、学園の全教職員が集まる年頭の場において、校長より説明され、これらは学園教育会誌「旦月会」(資料 1 - 2 - - 2)によって改めて全教職員に周知されます。また、これらは学内向け本校ホームページ(<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/>)において公開されることで、学生の参照も可能としています。全学生に配付される学生便覧や、在学生を対象とした本校ホームページには、教育目標やビジョンを学生の視点にそった、校長からのメッセージとして掲載されています。以上の点から、学生並びに教職員において、本校の教育目標やビジョンが周知されていると認識しています。

(資料1 - 2 - - 1)

「教育実践」



教育実践

金沢工業高等専門学校校長

堀岡雅清

高等専門学校は、国公立を合わせ全国に63校ありますが、金沢工業高等専門学校は、これらの中で最も古く、43年の歴史をもち、「人間形成・技術革新・産学協同」の建学綱領のもと、力強い発展を続けてきました。

本校教育の目標を一言で述べると、新時代を切り開くことのできる心豊かで創造性に富んだ技術者の養成であります。この目標に沿って平成8年に教育改革を実施し、教育内容の一層の改善を図りつつある中で平成15年には「国際コミュニケーション情報工学科」の新設と「電気工学科」の「電気情報工学科」への名称変更など学科の改組を行いました。また同時に、全学的なカリキュラムの見直しをしました。

以下、5項目にわたる本校の教育実践目標を述べます。

教育の実践目標

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における次の5つの活動を通じて、その実現を目指しています。

- ①「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じて“K I T - I D E A L S”に基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- ②21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションのできる素養の養成を目指します。
- ③エンジニアとして必要な知識や技能に係わる専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- ④地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- ⑤学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものと考えています。

- ・学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。
 - ・学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。
 - ・学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。
- 本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、学生、教職員の一致した努力のもと、その取組を実施しているものです。

(出典 「学生便覧 2005」P.8)

(資料1 - 2 - - 2)

「旦月会誌 平成17年1月号」

学位授与機構の本審査に全力

本校教育の特色の明確化を図る

新しい年の高専 校長 堀岡 雅清

皆様、新年あけましておめでとうございます。高いところから恐縮ですが、平成17年の年頭にあたり一言ご挨拶を述べさせていただきます。

まず、昨年10月に発生した中越地震、そして年末のスマトラ島沖地震に伴うインド洋大津波で被災された多く



成果と抱負を披露する堀岡校長

の方々にお見舞い申しあげると共に犠牲となられた方々に対して深く哀悼の意を表わしたいと思います。一方、暮れも押し迫った12月30日には皇室の紀宮様ご婚約内定とのおめでたいニュースに接し、大変嬉しく思いました。心からお喜び申し上げます。

さて、金沢高専は現在元気に前進を続けておりますが、これは学園創設者泉屋利吉先生をはじめ歴代の校長先生、本校の発展に苦勞された多くの皆様のお陰であり、ここに深く感謝申し上げます。

ところで昨年の高専を振り返ってみると、本校の歴史始まって以来ともいえる大きなことがありました。それは全国にある高専63校に先駆けて、他の高専7校と共に大学評価・学位授与機構による試行的な認証評価を受審したことであります。受審の理由の一つは平成16年度から法律により全国の大学、短大、高専が文部科学省の認めた評価機関によって7年に1回の割りで認証評価を受けなければならないことでした。もう一つの理由は、今回の評価を本校へやってきた黒船と見え、これを教育

改革のチャンスと考えたからであります。評価については、昨年7月の自己評価書の提出、10月には授与機構による訪問調査が行われました。この訪問調査をクリアすると共に教育改善を進めるため全校的な取り組みがなされ、全教職員対象の研修会の開催など種々努力がなされました。

待ちに待った認証評価結果については、昨年の12月24日に授与機構からメールが入りました。それによれば「本校は高等専門学校の評価基準を満たしている」つまり「合格」ということでした。これは今年度本校にとって最もおめでたいニュースでした。この成功は高専の教職員のみならず学園のJQAの皆さんをはじめとする関係の方々のお陰であり厚くお礼申し上げたいと思います。

しかしながら今回の認証評価は試行であるため、平成17年度から実施される本審査を7年以内に受けなければなりません。教職員の意識の高まっている今年、授与機構による本審査クリアを最大の目標と定め、全力を注ぎたいと思います。そのためには今回の審査で指摘を受けた点の改善を図ること、ついで本校の教育の特色の一層の明確化を図ることが重要であると思います。

具体的に改善すべき点は1)教育改善への組織的な取り組みを徹底すること。2)例年入学者は定員を超えてはいるが、国際コミュニケーション情報工学科については定員を若干名下回っており、この確保を図ること。3)授業満足度の向上を図ること。4)シラバスの改善を図ることなどであります。

現在これら四つの項目を中心に改善を図りつつありますが、特に2年前に設置した「国際コミュニケーション情報工学科」が順調に伸展するよう注意を払っていききたいと思います。

今回の評価で優れているとされた点は、「ハンズオン教育」、「インターンシップ」、「英語教育と留学支援」、「穴水湾自然学苑教育」、「教員個々の自己点検評価と次年度に向けての改善」などでした。今年はこの特色の一層の明確化、前進を図りたいと思います。特に1)ハンズオン教育における創造実験については、新たな試みとして企業との連携を取り入れ、現場技術者養成の実をあげていきたいと思っています。2)留学支援については2年前の学科改組時に入学した学生を対象とする新たなニュージーランド3年次留学プログラムを成功に導かなければならないと考えています。

(出典 「旦月会」 平成17年1月号 P.10)

「1日一感動運動」を全校で展開

さらに3)建学の精神を実践する穴水湾自然学苑教育の延長として、学園のKIT-IDEALSの精神、感謝と奉仕の精神を育むため1日一感動運動を展開します。

この運動の趣旨は、昨年新年互礼会で理事長がご挨拶のなかで述べられた「感動こそが向上心の原動力であり、学生に感動を伝え、また我々自らも感動を」とのお考えを実践していこうというものであります。試行として、昨年の11月、1年のクラス担任の先生が指導され、1年生全員に1日に一つ感動したことや実践した善い行いを1か月間にわたり所定用紙に記入させ提出させました。

その一部を紹介すると

「ゴミを拾ってゴミ箱に捨てた」「…のスリッパをきれいに並べた」「水道の水が出っ放しだったので止めた」「教室の窓から見た紅葉が幻想的で美しかった」「…に元気に挨拶ができた」「家の手伝いをして母の苦勞が分かった」「数学がわかるようになった」「1日一感動を1週間続けることができた自分に感動した」などであります。

学生が提出した用紙にはこのような小さな感動や善いことが1日に1年生142名分、1か月でその30倍の約4,200件近くが記録されており、読み進むうち学生たちの素直な、そして美しい心に深い感動を覚えました。そして「思いやり」や「感謝・奉仕の心」、そして「向上心」を育むには、このように小さなことでも親切な行いを実践すること、人や物事の良い点、美しい点を見出し感動することが大切であるとの思いを強くしました。そしてまさに江戸時代の思想家江藤樹の言葉「…小善は徳をもたらす」は本当のように思えました。3月までは試行期間とし、4月から全校的に実施する計画です。

最後に昨年の本校学生の活躍ぶりや先生方の教育の取り組みとして先に述べたものに次の五つの出来事に加え、教職員の皆様に感謝したいと思います。

まず第1は経済産業省などが発行する「平成15年度ものづくり白書」に、創造的ものづくり教育の実践事例として東京工業大学大学院理工学研究科、埼玉大学工学部の例と併せて本校のものづくり教育の計三つが掲載され

たことです。第2には昨年から本格化した地域の小学校・中学校に対するサイエンスの出前授業は、文部科学省から大学ジュニアサイエンス事業の助成を受け、昨年は12校の小中学校などへ出かけ生徒さんの好評を博したことです。第3は、NHKのアイデア対決全国高専ロボットコンテストの東海北陸地区大会で特別賞を受賞したこと。そして第4は全国高専体育大会で剣道が団体で3位入賞を果たしたことです。第5は校長表彰・褒賞の受賞数が年々増加している事です。平成11年から15年までの4年間で総数では14%増、そのうち優秀科目賞は35%増、年間啓蒙・精進賞は43%増となっています。

このように学生たちの積極的な取り組みとその成果は、



服部副学長の発声で万歳三唱をする出席者

高専の教職員、そしてここにおられる全教職員のお力のお陰であり、厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

さて本日この時より金沢高専日本一に向けての今年の新たな目標に向かってお互い邁進していきたいと思えます。皆様方なにとぞよろしく願い申しあげます。

平成17年1月6日

金沢工業高等専門学校
校長 堀岡 雅清

観点 1 - 2 - : 目的が社会に広く公表されているか。

(観点にかかる状況)

- ・ 本校が発行する入学案内「HANDS-ON 2005」(資料 1 - 2 - - 1) に建学綱領及び教育実践目標を明示し、県下の中学校を中心に広く配布しています。
- ・ ホームページ (<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/>) (資料 1 - 2 - - 2) (資料 1 - 2 - - 3) にて、本校の目的、特色や取り組みを広く社会に公表しています。
- ・ 地域に対する次の活動を通じて本校の目的や特色を理解いただく努力を行っています。
 - ・ 高専祭での学校紹介：年 1 回
 - ・ 小中学校への出前授業 年 12 回
 - ・ 中学生への技術指導、招待試合 (バスケットボール部、剣道部) : 年 1 回
 - ・ 吹奏楽部の定期演奏会 (年 1 回)
 - ・ 地域住民と協同で実施するボランティア活動 (清掃活動) : 年 1 回
 - ・ 本校の年間行事を記載した「CAMPUS CALENDAR」の配布 (4,000 枚) : 年 1 回
- ・ 企業に対する次の活動を通じて本校の目的や特色を理解いただく努力を行っています。
 - ・ 県内外の企業年間約 120 社 (インターンシップ訪問 70 社、企業訪問 50 社) への訪問
 - ・ 機械工業見本市「MEX 金沢」への出展：年 1 回

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 中学生、中学校の先生及びその保護者を主たる対象とする入学案内を 2 万部作成し、県内を中心とした中学校訪問を行い、中学 3 年生全員に配布を依頼しています。これらにより、本校を理解してほしい人々に十分行き渡っていると認識しています。
- ・ ホームページでは、在学生、保護者、中学生、中学の先生、卒業生、企業毎にページを開設 (資料 1 - 2 - - 3) し、伝える情報の精査や、見せ方、表現をそれぞれ工夫し、分かりやすく伝える努力を行っています。
- ・ 地域に対する活動 (高専祭、演奏会、ボランティア) は、多年に亘る継続した取り組みとして定着したのとなっており、地域の理解を促進する努力がなされていると考えています。
- ・ 企業に対する活動も多年に亘る継続した取り組みとして定着しており、本校との良好な関係が構築されていると考えています。

(資料 1 - 2 - - 1)

「入学案内 HANDS-ON 2005 教育理念 教育実践目標」

教育理念



金沢工業高等専門学校校長
堀岡 雅清

21世紀を担う 心豊かで、創造性に あふれたエンジニアを育成

金沢高専は5年間の一貫教育により、心豊かで創造性あふれるエンジニアを育成します。平成15年に新設された「国際コミュニケーション情報工学科」では情報技術(IT)と実践的な英語力の修得に重点をおき、国際的なコミュニケーションがとれる情報技術者を育成します。また、「電気情報工学科」ではコンピュータとネットワークに強い電気電子技術者を育成、「機械工学科」ではメカトロニクスに強い機械技術者を育成します。さらに、今回の新カリキュラムでは3年次に1年間のニュージーランドのオタゴ・ポリテクニク(大学に相当)での留学プログラム(全学科学生の希望者を対象)を設けました。留学先と本校で共同開発したプログラムを修得し、これを単位として認めるため、高専の修業年限である5年間で卒業が可能です。

本校の教育プログラムの柱となるハンズオン(モノづくり)教育は、モノづくりを通して、主体的に研究や開発に取り組める

学生を育てるというものです。そのベースには学生の無限の可能性を開花させたいという教職員の高い思いがあり、それはすべての学生たちに心の波となって広がっています。学園は暖かい雰囲気になっており、学生、教員は仲のよいファミリーと言った感じです。このような学びの成果は学生の進路にはっきりと現れており、平成15年度の就職は景気が低迷するなかで例年通り就職率100%を達成。進学についても、金沢工大3年次への編入学をはじめ、他の国公立・私立大学へも多くの学生が進みました。平成17年の春に入学する皆さんが卒業するのは平成22年です。本校では「思いやりがあり」「大いなる夢を描き、目標に向かってまい進する」「学力と創造性を身につけ様々な課題が解決できる」そんな人間像を実現し、自信をもって巣立ってほしいと願っています。

教育実践目標

1 人間力の養成

「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に「ハンズオン教育」「穴水洞自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基盤とする創造性の高さを目標とします。

2 コミュニケーション力の育成

21世紀は情報化、国際化が一層進歩してゆく時代であると考え、本校の特色とも共える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目標とします。

3 自学自習力の育成

エンジニアとして必要な知識や技能に併わる専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を醸成し、自主的、主体的学習態度の育成を目標とします。

4 企業と連携した インターンシップの実践

地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目標とします。

5 能力の総合化の実践と 創造性の涵養

学生との共鳴と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実に注力します。

(出典 入学案内「HANDS-ON 2005」教育実践目標 P.18)

(資料 1 - 2 - - 2)

「ホームページ 教育実践」

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying the website of Kanazawa Institute of Technology. The page title is '学校案内: 教育実践 - Microsoft Internet Explorer'. The address bar shows 'http://www.kanazawa-tc.ac.jp/guide/practice.html'. The website header features the 'HANDS-ON' logo and the school name '金沢工業高等専門学校'. A navigation menu includes '対象者別メニュー', '学校案内', '学科紹介', 'HANDS-ON教育', '英語教育・国際交流', '施設紹介', 'Q&A', and '入試情報'. The main content area is titled '学校案内 GUIDANCE' and '教育実践'. A sidebar on the left lists various navigation options, with '教育実践' highlighted. The main text discusses the school's commitment to creating engineers with a strong heart and creativity, mentioning its 42-year history and recent curriculum reforms. It lists three key goals: (1) Cultivation of human power, (2) Cultivation of communication skills, and (3) Cultivation of self-learning ability.

学校案内: 教育実践 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス http://www.kanazawa-tc.ac.jp/guide/practice.html

HANDS-ON ハンズオン 金沢工業高等専門学校

?お問合せ 資料請求 見学受付

対象者別メニュー	学校案内	学科紹介	HANDS-ON教育	英語教育・国際交流	施設紹介	Q&A	入試情報
STATUS MENU	GUIDANCE	SUBJECT	HANDS-ON	SPEAK UP	CAMPUS GUIDE	HELP	ENTRANCE

学校案内 GUIDANCE

- > ごあいさつ
- > 金沢高専の特色
- > 建学綱領
- >> 教育実践
- > 学園の行動規範
- > 校章
- > 校歌
- > 沿革
- > 学校法人 金沢工業大学の構成
- > アクセス
- > お問い合わせ

教育実践

21世紀を担う心豊かで、創造性にあふれたエンジニアを育成

金沢工業高等専門学校校長
堀岡雅清

高等専門学校は、国公私立を合わせ全国に63校ありますが、金沢工業高等専門学校は、これらの中で最も古く、42年の歴史をもち、「人間形成・技術革新・産学協同」の建学綱領のもと、力強い発展を続けてきました。本校の目標をひと言で述べると、新時代を切り開くことのできる心豊かで創造性に富んだ技術者の養成であります。この目標に沿い、平成8年に教育改革を実施し、教育内容の一層の改善を図りつつある中で、平成15年には「国際コミュニケーション情報工学科」の新設と「電気工学科」の「電気情報工学科」への名称変更など学科の改組を行いました。また同時に全学的にカリキュラムを見直しました。

以下、5項目にわたる本校教育実践の目標、特長を述べます。

(1) 人間力の養成

「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。

(2) コミュニケーション力の育成

21世紀は情報化、国際化が一層進んでゆく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。

(3) 自学自習力の育成

(出典 金沢工業高等専門学校ホームページ)

(資料 1 - 2 - - 3)

Microsoft Internet Explorer
 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
 アドレス(D) http://www.kanazawa-tc.ac.jp/ 移動 リンク >>
HANDS-ON ハンズオン 金沢工業高等専門学校
 ?お問合せ 資料請求 見学受付

CONTENTS MENU> 学校案内 学科紹介 ハンズオン教育 英語教育・国際交流 施設紹介 Q&A 入試情報
 GUIDANCE SUBJECT HANDSON SPEAK UP CAMPUS GUIDE HELP ENTRANCE

在学生の皆様へ
for Students

保護者の皆様へ
for Parents

中学生の皆様へ
for Examinees

中学校の先生方へ
for Teachers

企業の皆様へ
for Enterprises

卒業生の皆様へ
for Graduates

おもしろ実験授業～出前授業～

KTC総合アンケート活動

- 金沢工業大学へ
- サイトマップ
- アクセス
- プライバシーポリシー

NEWS & TOPICS 新着情報

2005.03.29 オタゴ・ポリテクニク(ニュージーランド)留学の27名が帰国
地元紙「オタゴ・デイリー・タイムス」に本留学プログラムが取り上げられる [詳細](#)

2005.01.18 1月19日(水)公開講座「実験空間“創造学”」のお知らせ
『ロボットに「心」は宿るのか? ~攻殻機動隊に見るヒトとロボットの未来社会~』
[講師]

過去のニュースはこちら

5分でわかる金沢高専ツアー!

金沢高専がよくわかる
キャンパスナビ!
ハンズオン教育、1年間の
海外留学、気になる進路に
ついて、まとめて紹介しま
す!

[MORE](#)

ほくたちのハンズオン・ストーリー

KTCの学生たちが語る
キャンパスライフ!
海外留学や夢考房プロジ
ェクトの体験記、クラブ活
動など、学生たちが綴るキ
ャンパス紹介!

[MORE](#)

創造力をシゲキするハンズオン教育

モノづくりの感性を磨く
創造実験
クリエイティブなエンジ
ニアを生み出す秘密は、「ハ
ンズオン」教育にあっ
た!!

[MORE](#)

夢の海外留学も金沢高専におまかせ!

休学なしで卒業できる
画期的な留学プログラム
ニュージーランドのオタゴ・
ポリテクニクに留学。国際
派をめざすキミは要チェッ
ク!

[MORE](#)

金沢工業高等専門学校
〒921-8601
石川県金沢市久安2-270
TEL 076-248-1080
FAX 076-248-5548
www-admin@kanazawa-tc.ac.jp

> HOME > Copyright(c) Kanazawa Technical College. All rights reserved.

(出典 金沢工業高等専門学校ホームページ)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・イーグルブックをはじめ、ホームページ、旦月会誌、年頭の挨拶といったさまざまな手段を用いて、本校のビジョンや教育目標が学園内に周知されています。

(改善を要する点)

- ・地域社会を対象とする本校独自の広報活動は十分とは言えず、マスメディアの利用などの方策に改善が必要であると認識しています。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、学園として本校と大学を一体とした「工学アカデミア」構想を掲げるとともに、本校の教育実践目標として、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を挙げ、その実現を目指すために、5か年間にわたる教育課程や課外における5つの活動を挙げており、目的は具体的かつ明確に定められています。その内容は、学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的から外れるものではないと考えます。

これらの目的は、教職員向けのイーグルブック（建学綱領や学校の実践目標等を掲載した小冊子）、学生便覧、ウェブサイトなどに明記されており、ポスターを構内に掲示するなどして、教職員及び学生に対して周知されています。また、ウェブサイトへ掲載するとともに、県内を中心とした中学生に教育実践目標等を掲載した入学案内などを配布することにより、社会に対して広く公表されています。

また地域や企業に対しても本校への理解を促すべく多年にわたる継続した努力がなされています。

以上のとおり、学校の目的の内容、学校の構成員に対する周知の状況、及び社会への公表の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。